

TV シンポジウム

■概要

- 名 称 和歌山のあしたを語ろう！
「提言！いざという時のために～災害時における地域医療～」
- 放送日時 2011年9月24日（土）19：00～20：54
- 収録日時 2011年9月17日（土）13：00～16：00
- 収録場所 テレビ和歌山スタジオ
- 出演者 柏井洋臣先生（県医師会 会長）
成川守彦先生（県病院協会 会長）
百井 亨先生（日赤和歌山医療センター院長）
板倉 徹先生（県立医科大学理事長・学長）
川崎貞男先生（南和歌山医療センター救命センター長）
雑賀博子 氏（和歌山県健康局長）
- VTR出演 中谷譲二先生（県歯科医師会 会長）
岩本 研先生（県薬剤師会 会長）
木村佐多子氏（県看護協会 会長）
野尻孝子 氏（県保健所長会会長 御坊保健所長）
- 司 会 入江 真行（特定非営利活動法人和歌山地域医療情報ネットワーク協議会理事長）
笠野 衣美（進行アナウンサー）

■ねらい

先の東日本大震災では、多くの病院、診療所、薬局等の医療機関等において、大規模な津波による被災により、医療サービスが提供できない事態が発生した。また、医療サービスが継続できた医療機関においても、浸水等による医療機器の故障やライフライン（特に電力）の停止により、適切な検査等が行えなかったり、そもそもカルテが消失してしまうこともあった。

こうした状況を受けて、災害時・緊急時の医療課題について、テレビを通して認識を広め、解決に向けた提言を行う。

■結果

モニター評価による結果は、以下のとおりとなった。

【評定】大変良い2人／良い1人／普通3人／やや良くない1人／良くない人

【総評】堅いテーマに取り組んで、分かりやすかったとの感想がある一方、若い人には見てもらいにくいとの意見があった。災害時の薬情報管理についての知恵については役に立つとの意見が多かった。

【意見】①時間ばかり長くてただただしている会議を見ているようだった。一般人の心構えとして、保険証やお薬手帳など自分の病気の状態がわかるものを避難時に持ち出せということにはわかった。（47歳 主婦 女性）

②見る側も実感を持てるようにするための工夫があれば良かった。スタジオ内に救助活動や医療活動をする写真などあればより実感の伴った報告になったのではないか。大学の講義を聴くような一方的な報告ではなく、人間的な興味を加えていくことも必要だ。（53歳 自営業 女性）

③地域医療について県内の医療関係者のトップが顔を合わせて和歌山のために問題点から対策、今後の対策まで順をおって説明してくれてわかりやすかった。専門用語についてテロップで説明があつてわかりやすかった。（57歳 会社員 男性）

- ④どちらかといえば、難しく、若い人にとっては退屈しそう。大事な問題を取り上げてもらったがもっとわかりやすく伝えないと視聴対象者層が限られてくる。お薬手帳の電子化や避難グッズに歯ブラシを加えることは役立つ情報だった。(50歳 主婦 女性)
- ⑤被災地に実際に起こった問題点など詳しい状態は我々にはなかなか知ることができないので、番組をみて非常に参考になった。(30歳 アルバイト 女性)
- ⑥開業医や行政担当者、一般人に参加してもらい個人が役立つもの、個人が解決できるもの(事前準備関係)というテーマで構成して欲しい。薬関係の知恵は役に立った。(60歳 無色 男性)
- ⑦消化不良の発言の多いテレビ討論とは異なり中身が充実していた。各団体の成果報告に偏ったきらいがあったが、後半でバランスがとれた。(69歳 無職 男性)

【詳細】別添番組モニター報告書のとおり

■収録と放送の様子



以上